

リーダーの心得

第2回目は第1回でご紹介したPM理論の切り口でリーダーシップを高めるためにどうすればよいのかを考えていきましょう。

第2回：リーダーシップを高めるヒントを得る

1. PM理論で見た場合、あなたのタイプは？

第1回の最後にご紹介したPM理論、皆さんはどのタイプでしたでしょうか？

振り返りとしてQCサークル（小集団）に合わせて4象限で表現すると、以下のタイプに分かれます。

PM型：目標を達成する力はあるし、サークルをまとめるのも上手

Pm型：目標を達成する力はあるが、サークルをまとめるのが苦手

pM型：目標を達成する力は弱い、サークルをまとめるのは上手

pm型：目標を達成する力が弱く、サークルをまとめるのも苦手

（図・2参照）

理想としては目標達成力と集団維持力が高いPM型が最もリーダーシップを発揮できている状態です。メンバーにとっても成果達成により会社貢献の実感、自身も他のメンバーといっしょに参画して活動に貢献できたというやりがい、達成感を得られやすくなります。

2. 強みを伸ばし弱みを克服する

では目標を達成する力が弱い（p）の場合どうすればよいでしょう。

まずメンバーに目的・目標（何を、いつまでに、どのくらい）を示すこと、そしてリーダーはメンバーに任せっぱなしではなく活動計画に合わせてしっかり進捗管理をすることが重要です。リーダーの独りよがりサークルや、仲良しサークルで終わることなくみんなで目標達成志向を持って活動をリードすることが大切です。ポイントとしてはメンバーと考え方や目指すべき方向を合わせることです。QCサークル活動においては、まずテーマ選定において、そのテーマに取り組むべき背景・理由をみんなで納得して活動をスタートすることが重要です。たとえ会社・上長方針、上長から与えられたテーマであっても何故取り組まなくてはいけないのか議論をリーディングしていきましょう。また、目標設定においても何故この目標値を目指すのか、いつまでにやるべきなのか設定根拠を明確にし、納得することが重要です。メンバーと考え方や目指すべき方向が合意できて初めて自主性がうまれます。

それでは、サークルをまとめるのが苦手（m）な場合はどうすればよいでしょうか。

まずは、意識をしてメンバー一人一人に日常的に声をかける、悩みがあるようであれば相談にのる、時にはメンバーと飲み会など仕事を離れたコミュニケーションをとることで信頼関係を築くことが大切です。そして活動の中で役割を割り振る、発言の機会をつくることでサークルへの参画意識を高めチームとしての結束力を高めることが重要です。特にPm型の方は自身の目標達成志向が強すぎて仕事一辺倒の内容でのコミュニケーション、メンバーの自主性を抑えてしまうことがありますので意識をしていくことが重要です。



図・2 PM理論の4象限 (QCサークル(小集団))

今回も最後まで読んでいただきありがとうございました。いかがでしょう？「わかるけど、そんなことを言っても一人一人個性も仕事の習熟度も違うし難しんだよ！」と思われたかもしれません。次回はその部分に焦点を当ててリーダーシップについて考えてみたいと思います。



野上 真裕 (のがみ まさひろ)

株式会社TMJ 運営管理部 副部長
NGM K-consulting 代表

QCサークル本部幹事、『QCサークル』誌編集委員、
QCサークルセミナー指導講師 など
QCサークル関連事業に数多くご協力いただいております。
ご自身の豊富な社内外での経験から、小集団のリーダーの皆様へ役立つ提言をいただきます。